

韓島

定野村沖合 大浦港口ノ前面

神 幸島 銭と見らる

言はく幸北崎那るゆくりは相生をいへ過つみろの
深く思慮をすのちの神代乃昔ははの銭乃神廻命
のよくふま梅志理家の玉也もろくの木種もと見らる
五十程乃神代立卒るを承らして降軍まやろはよふねの
こまはてなんろの丹乃なきる崎もををれ神代まし
あを子もこも魚信あやし可り各利をこみま信考
可利をうられ神しま 静 靱皮

神島

大浦沖合

晚翠林 徳則

橋梓相携渡海 回御舟維縹石 崔嵬素尊
勲業長無墜 日照韓山 瑞色開

韓郷山 大浦

韓浦

大浦ノ又ノ名ニシテ大からとも云ふ

細川幽齋著九州道記ニ

石院の大からといふ所に泊りて見るありた
仁洞といふ津をを行く云々

辛、碕、大浦ノ海岸ヲ云フ

角々はふり見の海の言さへく辛の碕なる
いくりにを深海松は生ふる云

万葉集一 柿本人麿